

資料 B : 障害学生へのインタビュー調査事例 (平成 20 年度, 平成 21 年度)

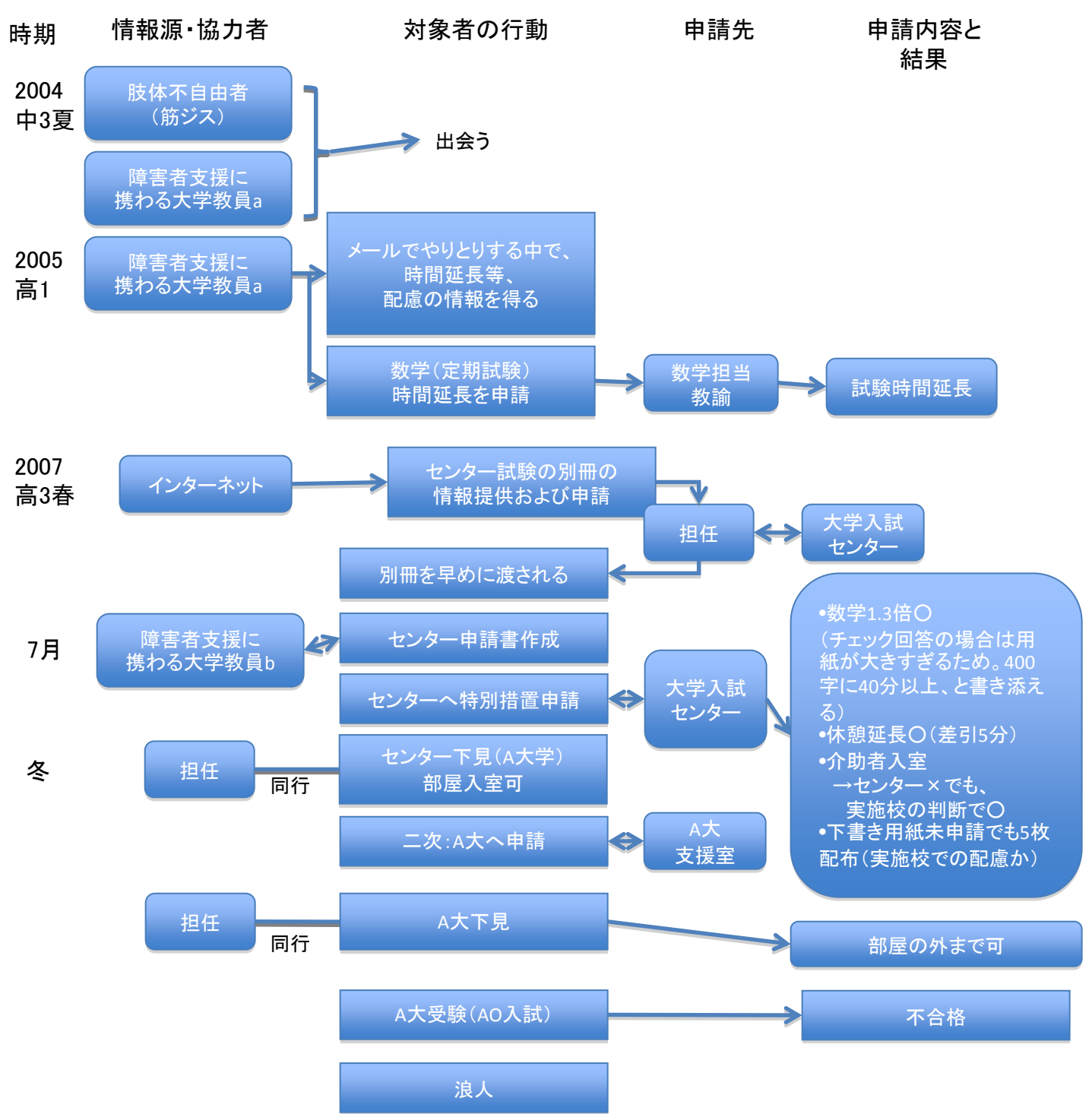
平成 20 年度

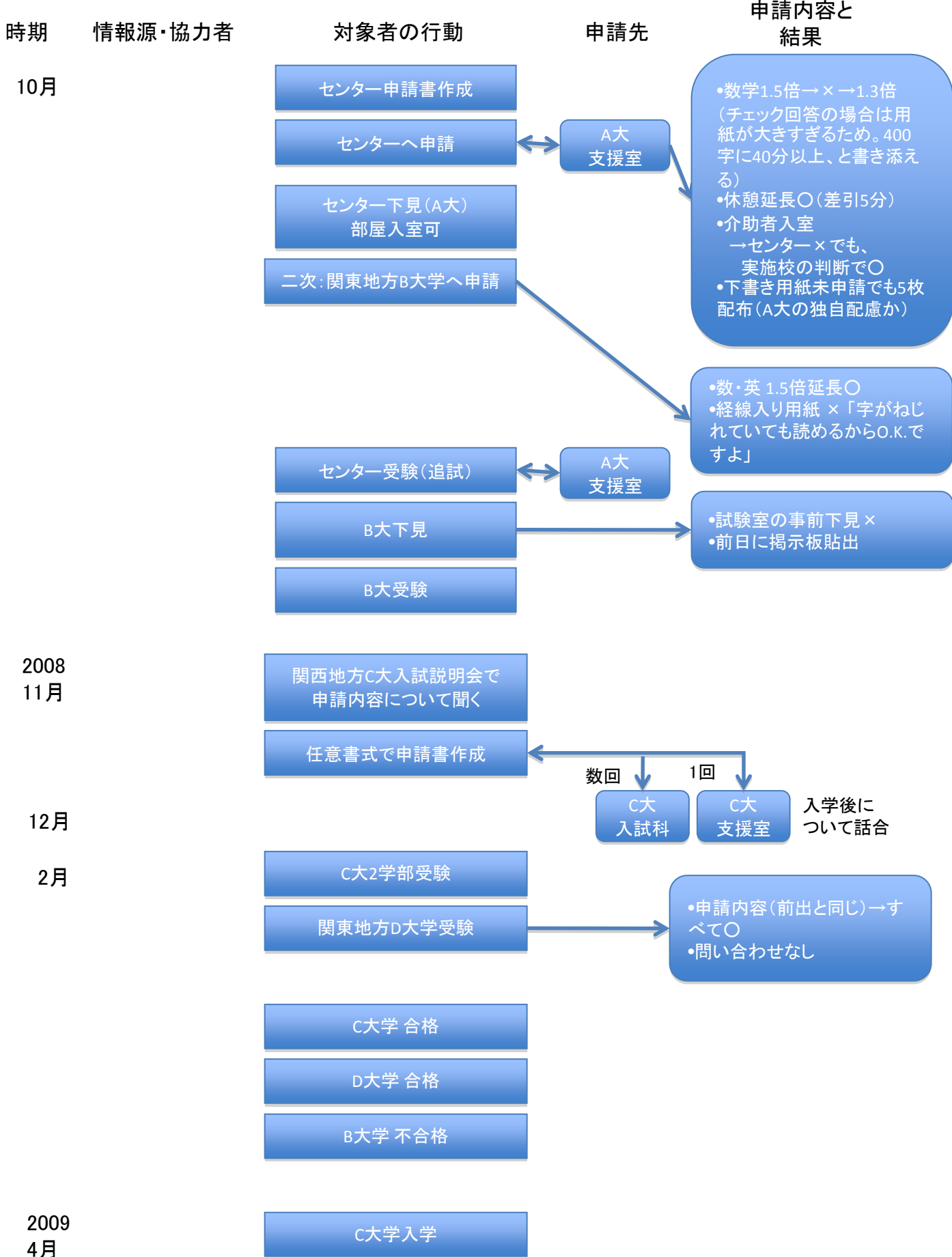
事例	障害名
1	体幹機能障害 (筋ジストロフィ)
5	体幹機能障害 (脳性麻痺)
6	体幹機能障害 (脳性麻痺)
8	四肢体幹機能障害 (疾病)
11	下肢機能障害 (脊椎損傷)
14	聴覚障害 (伝音難聴)
15	発達障害 (アスペルガー症候群)
18	高次脳機能障害 (多発性硬化症)
19	視覚障害 (網膜色素変性症)

平成 21 年度

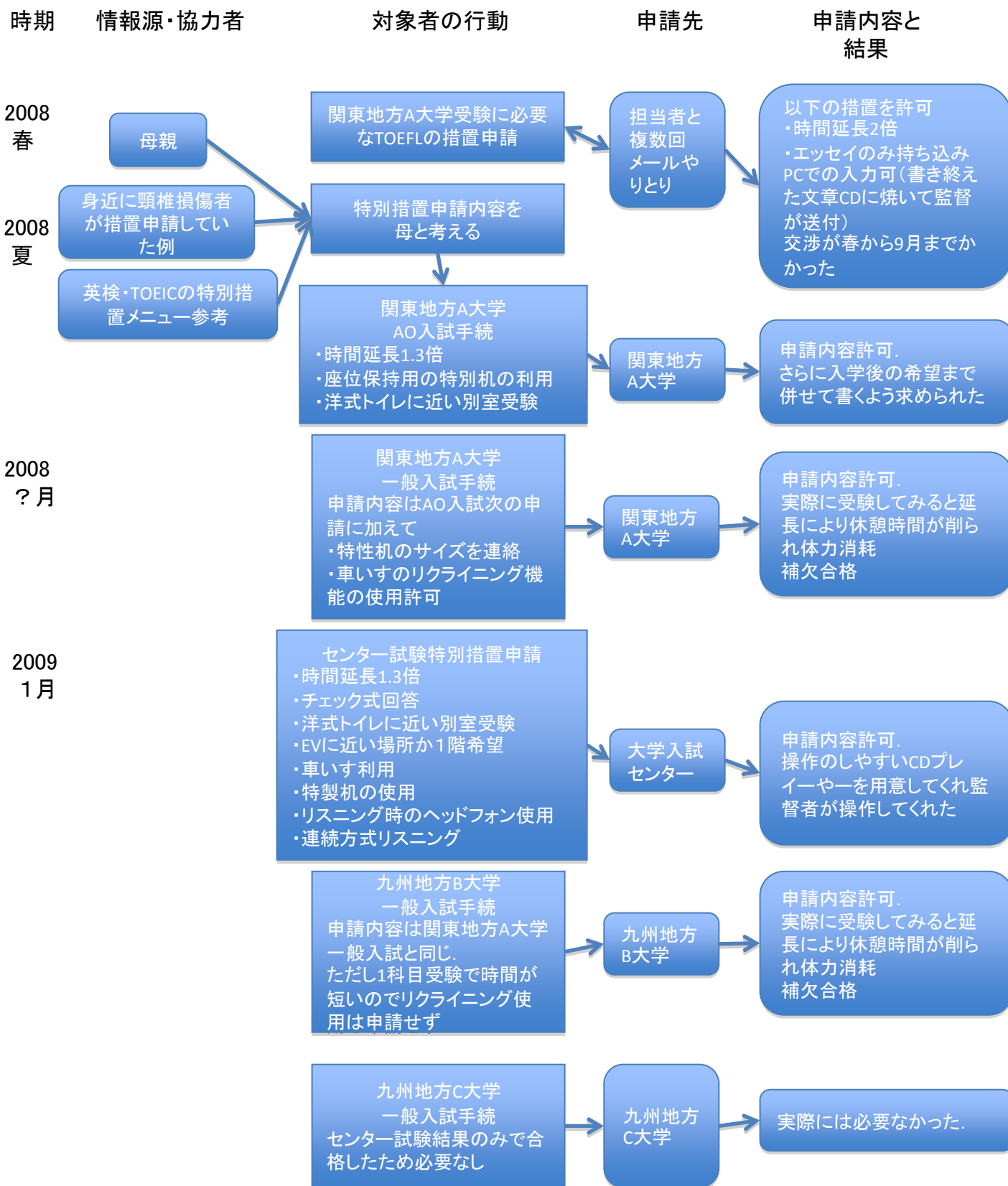
事例	障害名
1	体幹機能障害 (筋ジストロフィ)
2	体幹機能障害 (筋ジストロフィ)
3	体幹機能障害 (筋ジストロフィ)
4	四肢体幹機能障害 (脳性麻痺)
5	四肢体幹機能障害 (頸椎損傷)
7	両上下肢機能障害 (骨形成不全)
8	体幹機能障害, 視覚障害 (疾病)
9	聴覚障害 (感音難聴)
11	発達障害 (AD/HD, 広汎性発達障害, 抑うつ)
12	高次脳機能障害 (視覚障害, 視覚失認, 軽度左半身麻痺)
13	高次脳機能障害 (記憶障害, 遂行機能障害)
14	四肢体幹機能障害, 構音障害, 高次脳機能障害 (後遺症)

事例1:体幹機能障害(筋ジストロフィー)による肢体不自由. 筆記および動作全般に困難がある.
 電動車いすによる移動.

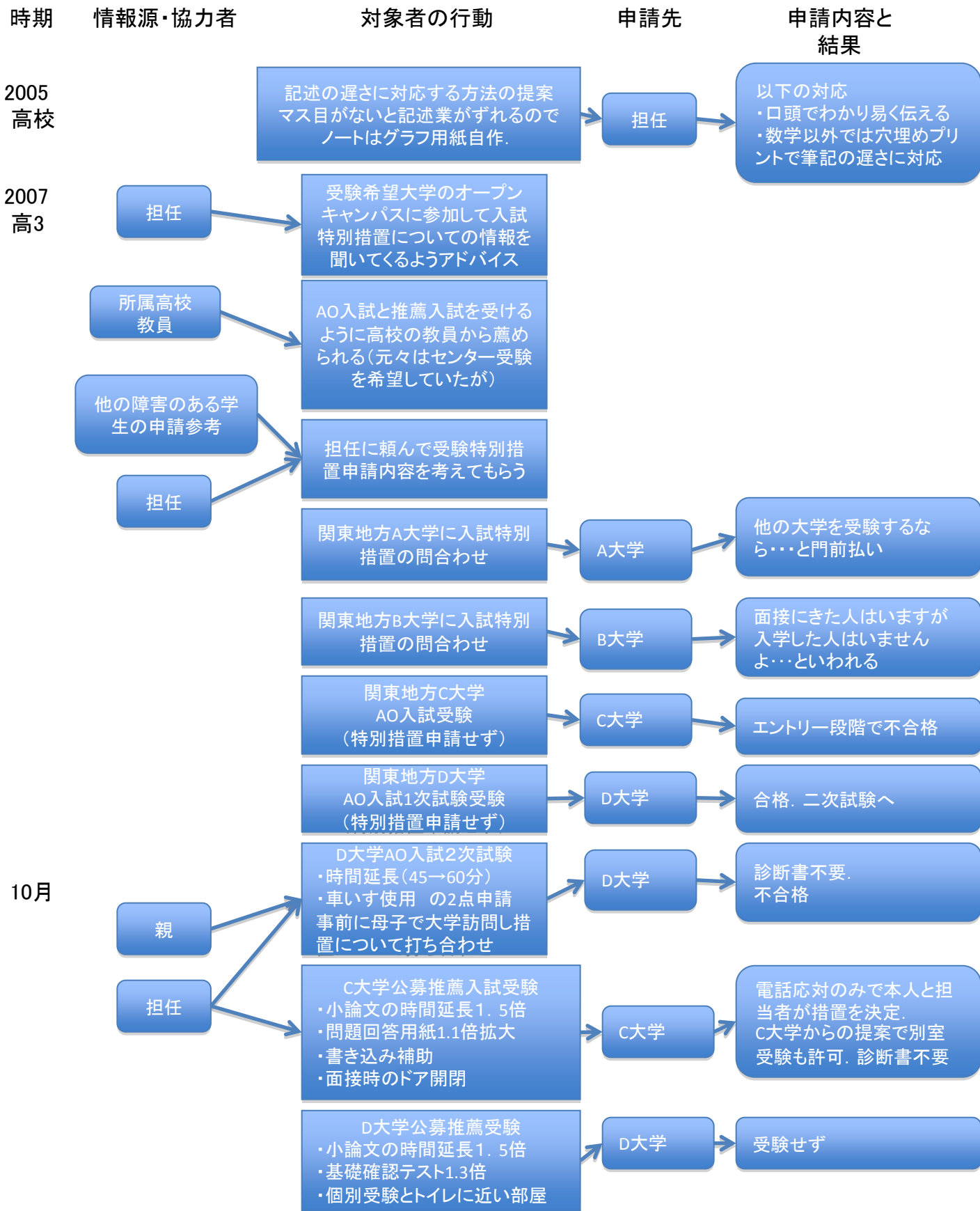




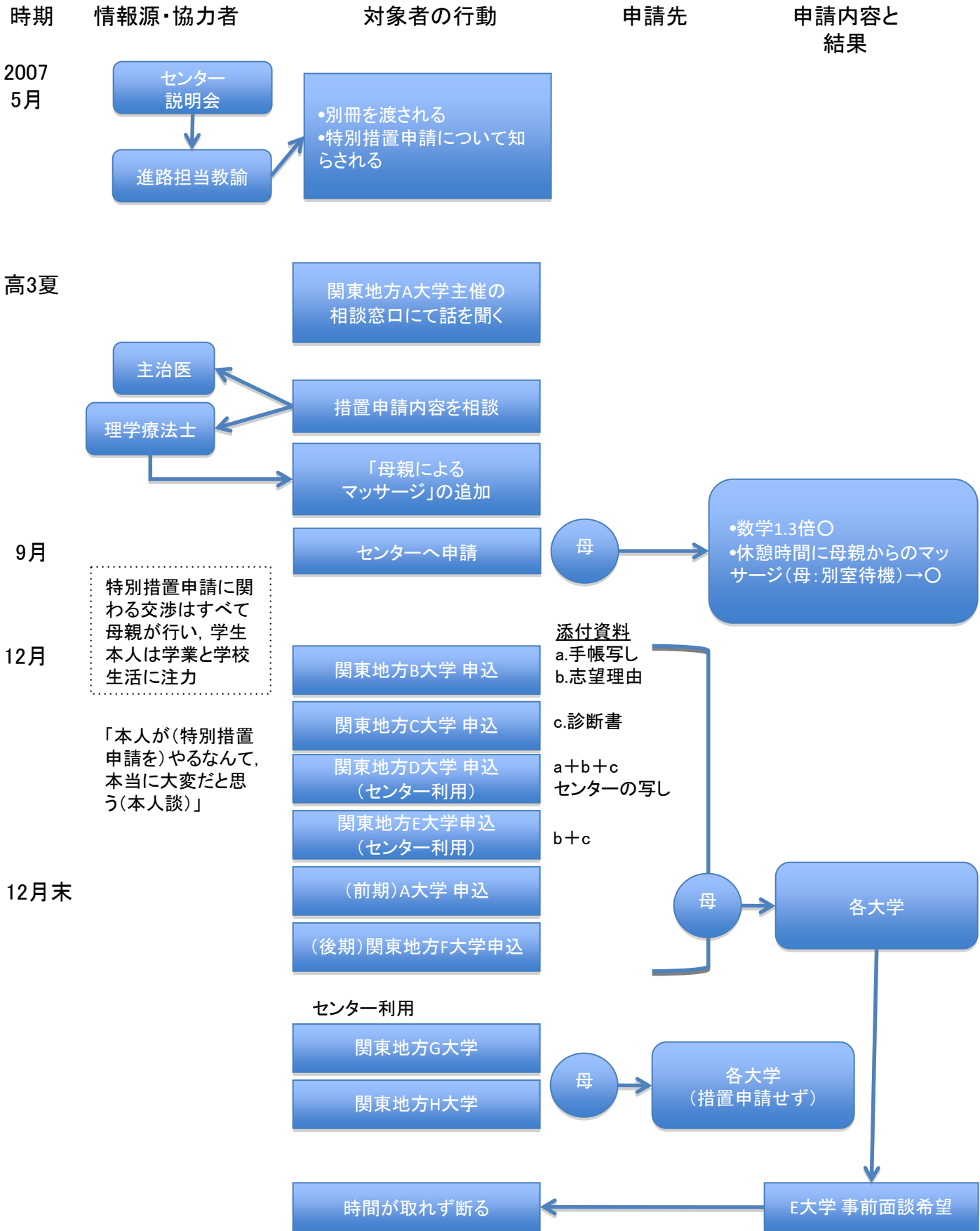
事例5：脳性麻痺による四肢体幹機能障害1級。姿勢の安定が困難なため、学習時は体を固定するための椅子が必要。筆記も同じ理由から困難。電動車いすと手動車いす両方を利用しているが主として電動車いすを利用。

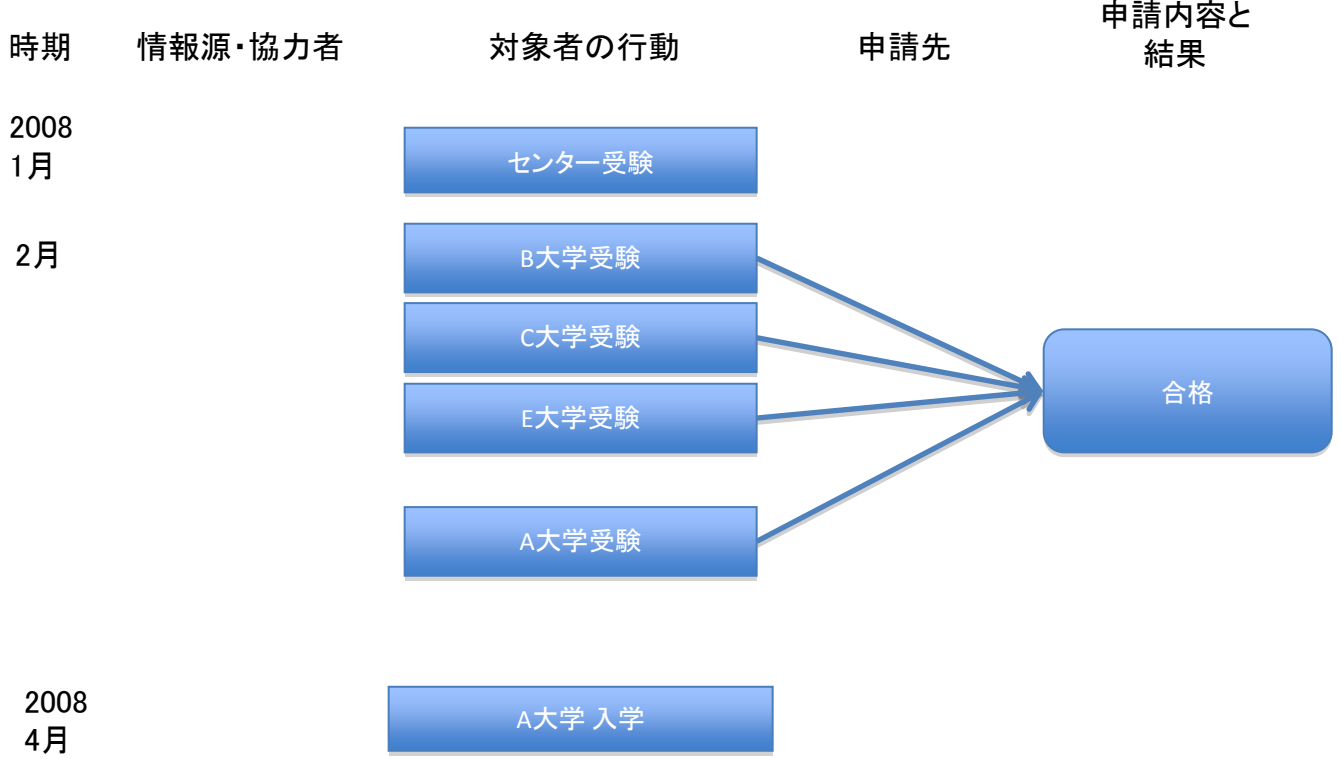


事例6: 脳性麻痺による体幹機能障害. 筆記に困難がある. 手動車いすを利用. 視力が低く読みに困難がある.



事例8: 四肢体幹機能障害(疾病)による肢体不自由. 筆記に困難がある. 手動車いすを利用.

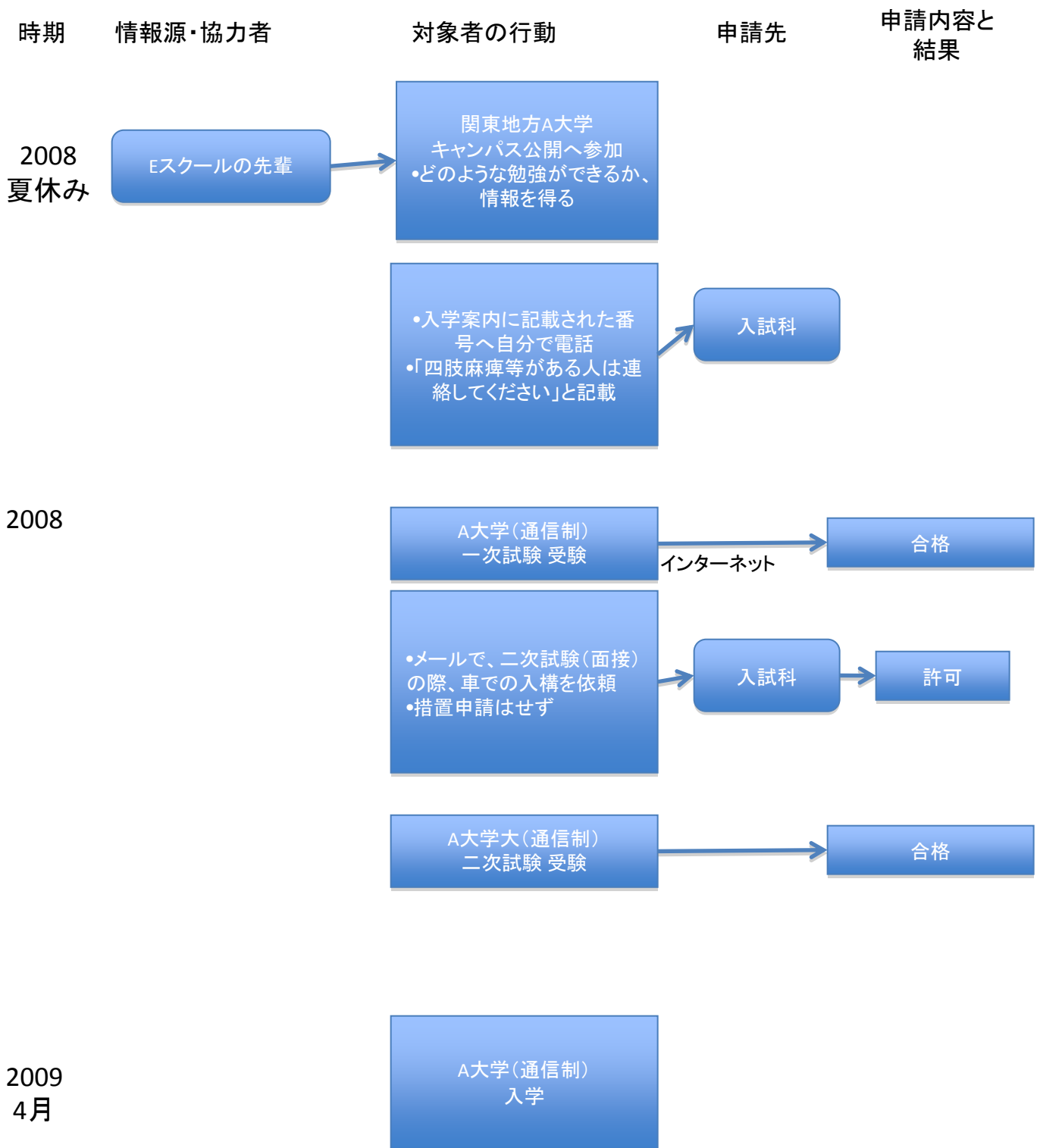




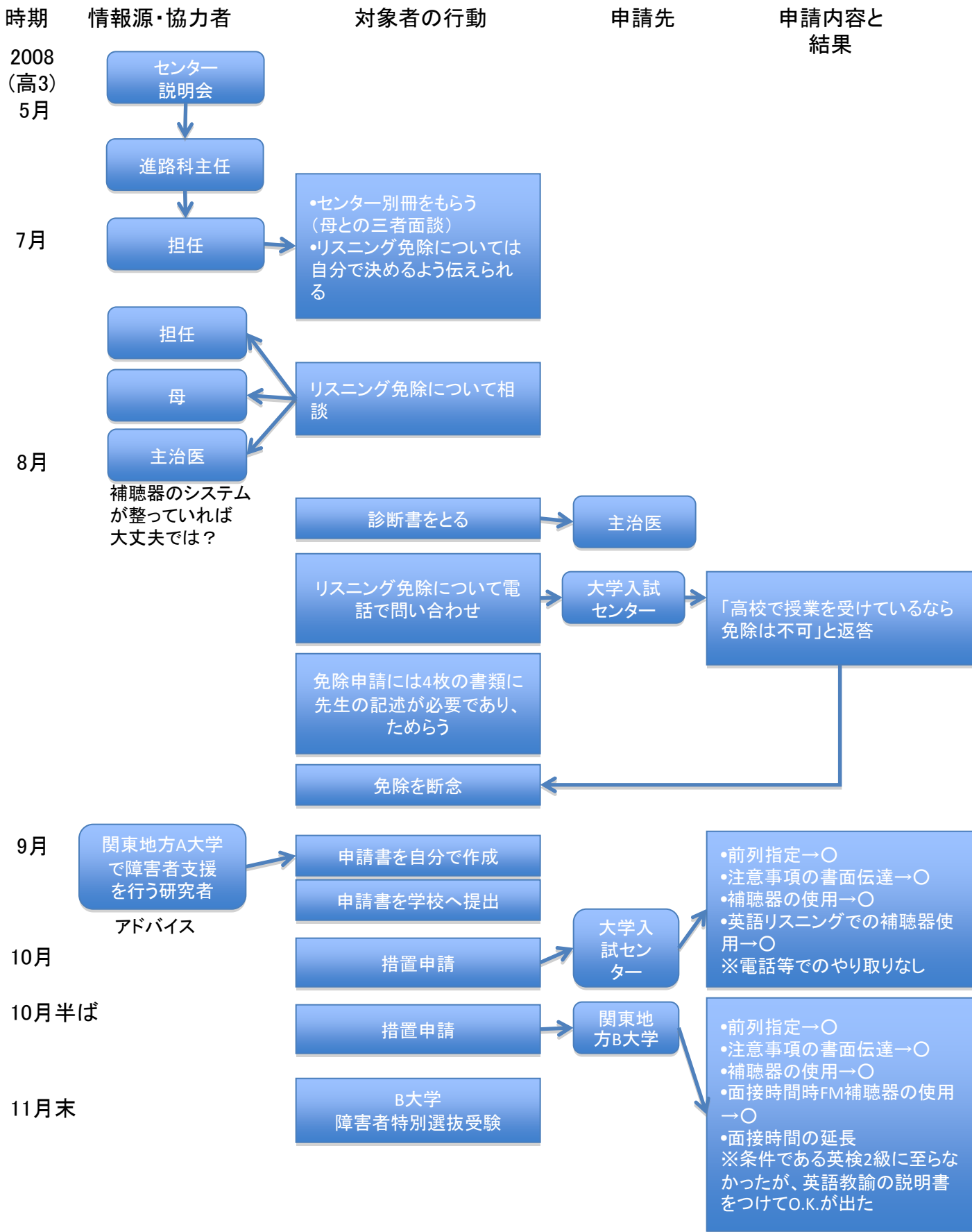
受験手続きにおいて、大学により添付資料が異なるため、各大学へいちいち問い合わせをしなければならない。これは親子ともに負担が大きすぎる。

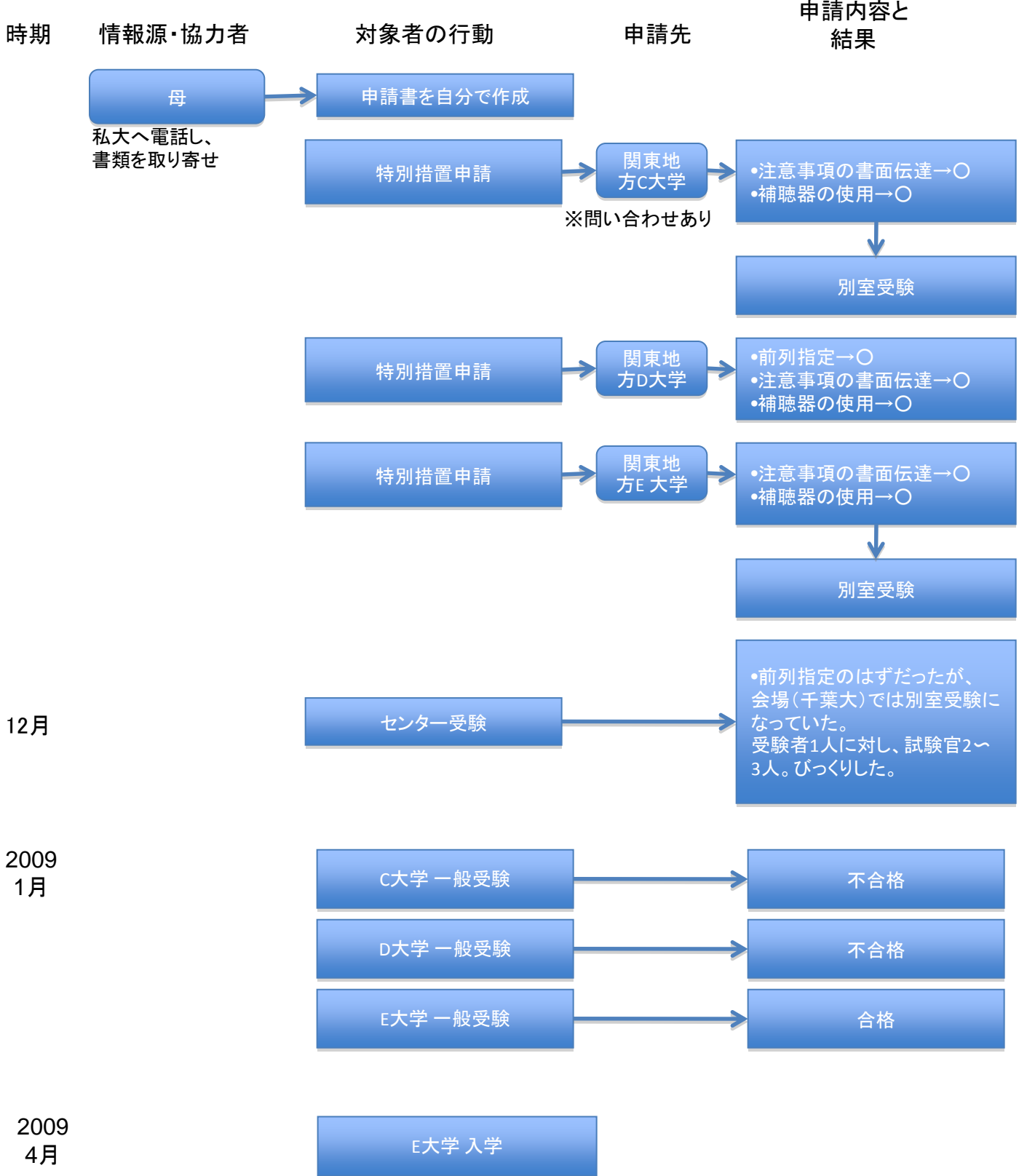
(高校の担任談)

事例11: 下肢機能障害(脊椎損傷)による肢体不自由. 手動車いすを利用.



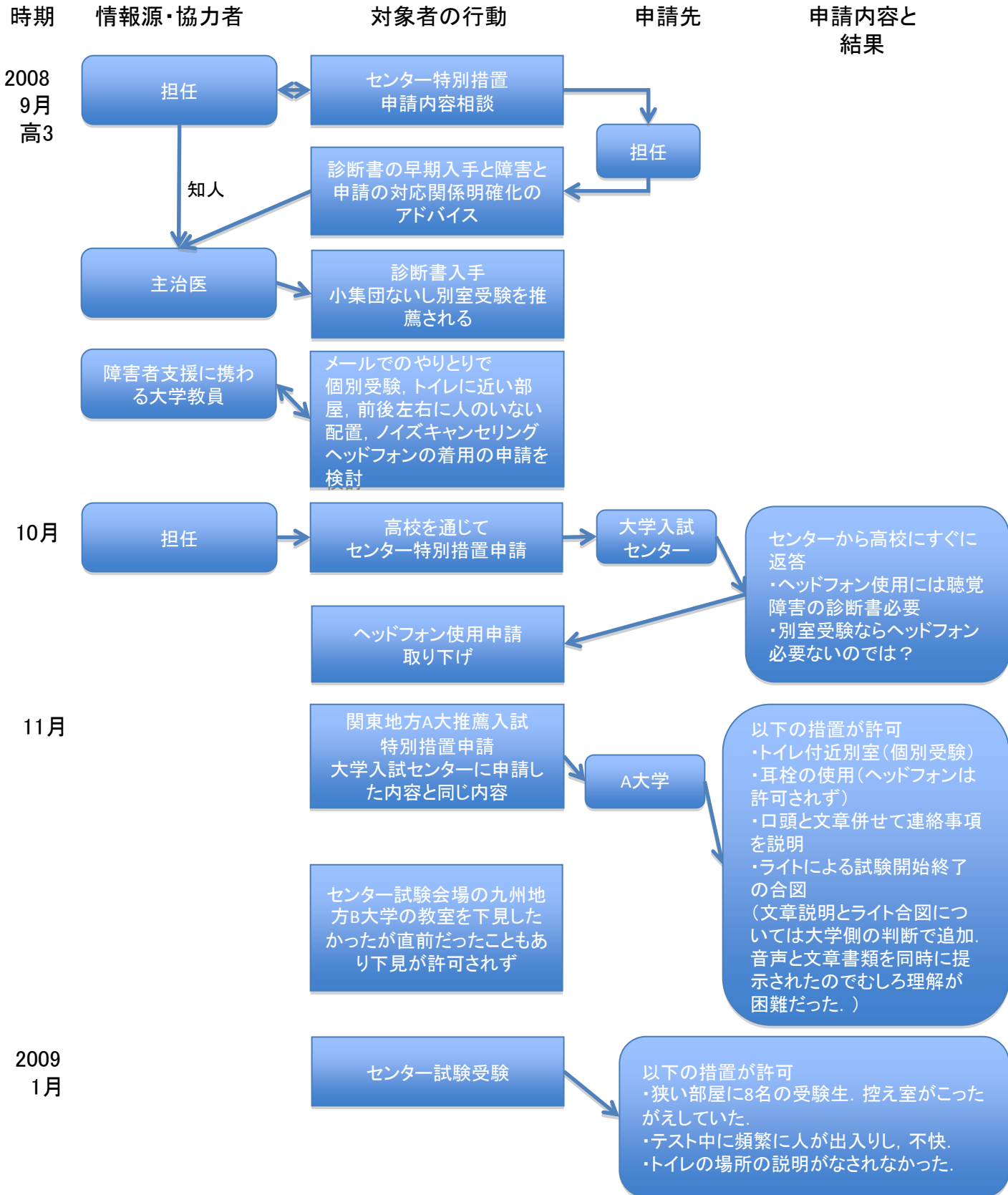
事例14:聴覚障害(伝音難聴)による聴覚障害



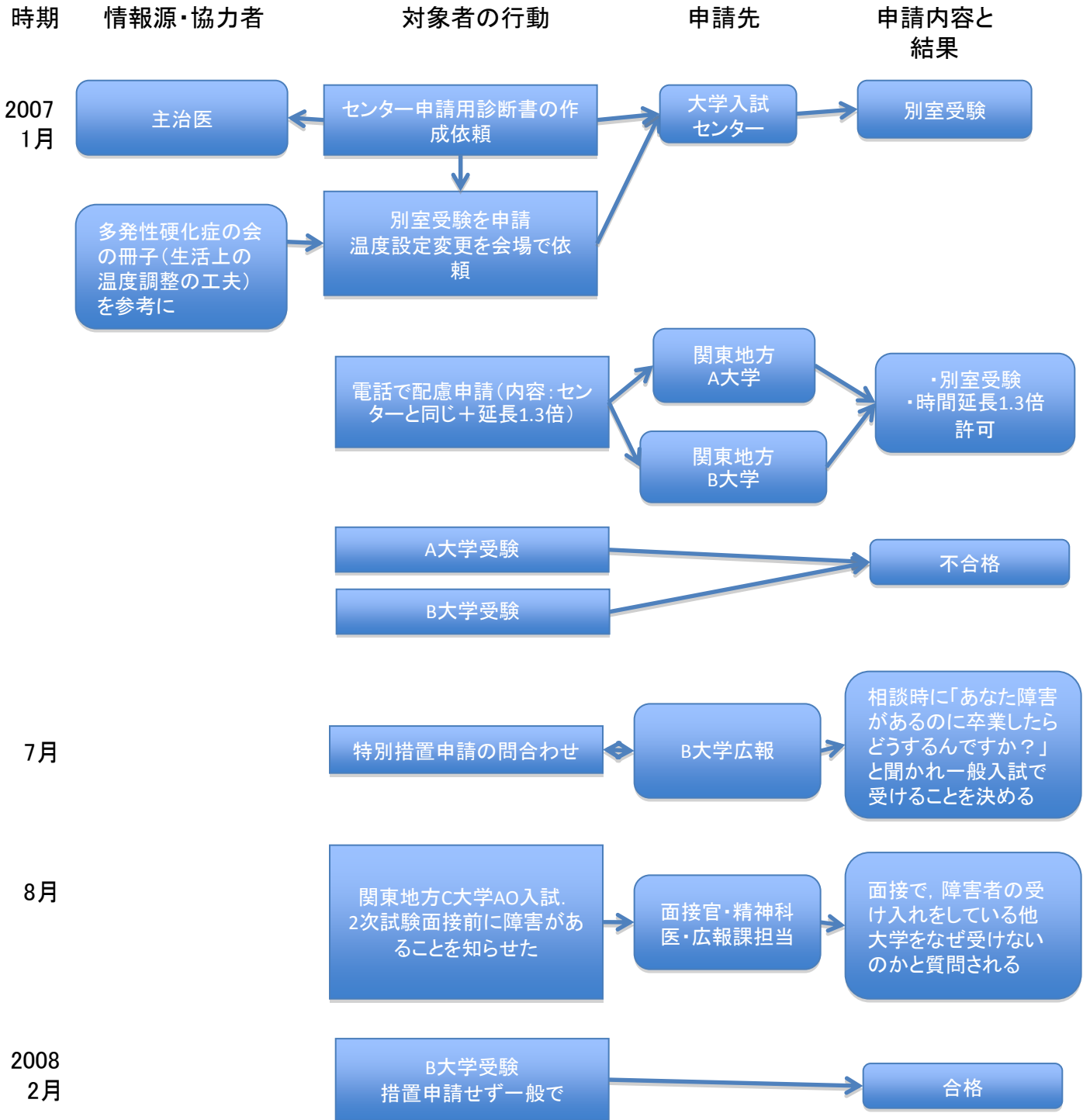


受験手続きにおいて、大学により添付資料が異なるため、統一様式があるとよい。障害について文章にして伝えることは大変であった。(本人談)

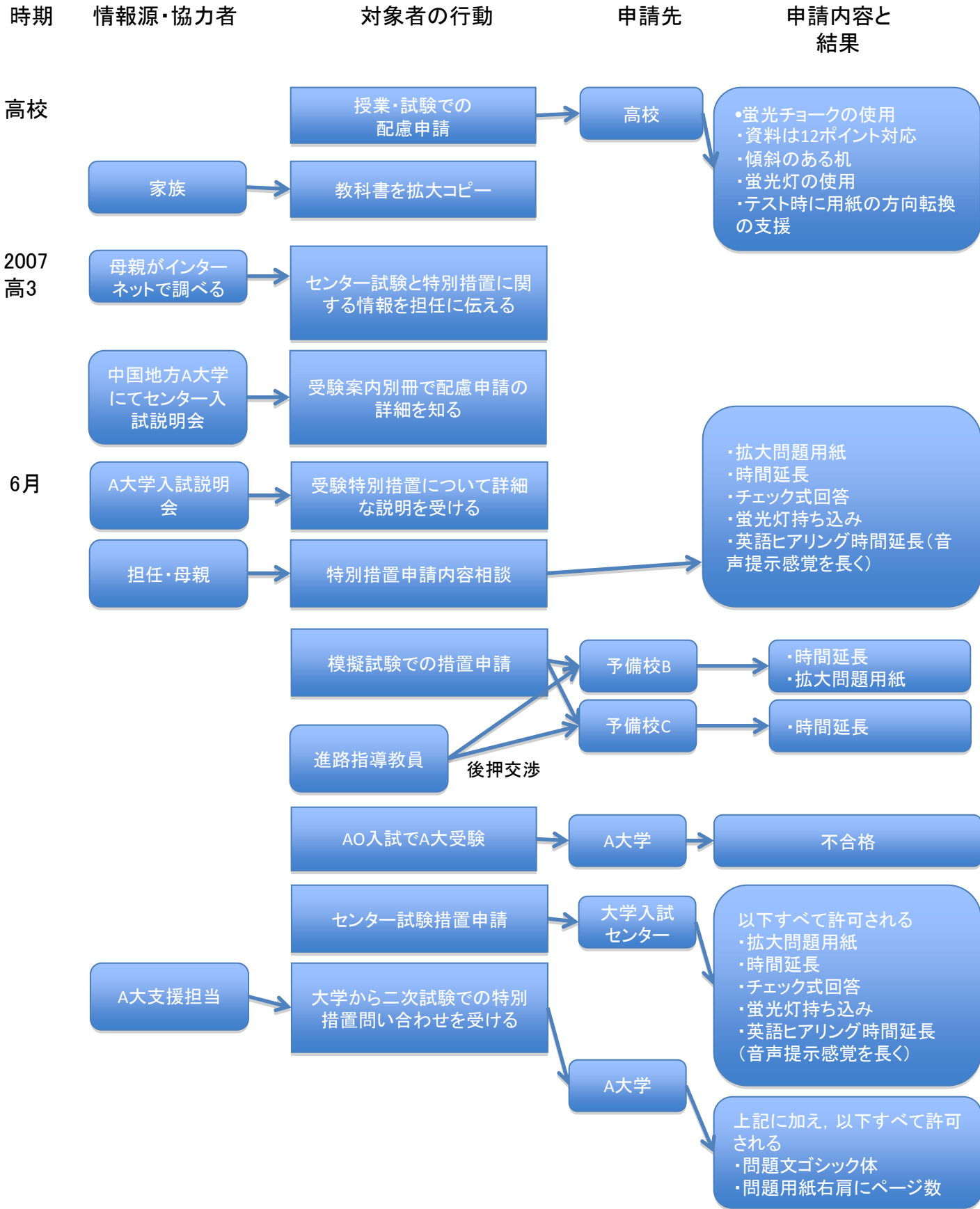
事例15:アスペルガー症候群. 慣れない環境や対人関係の困難があり, ストレスになる.



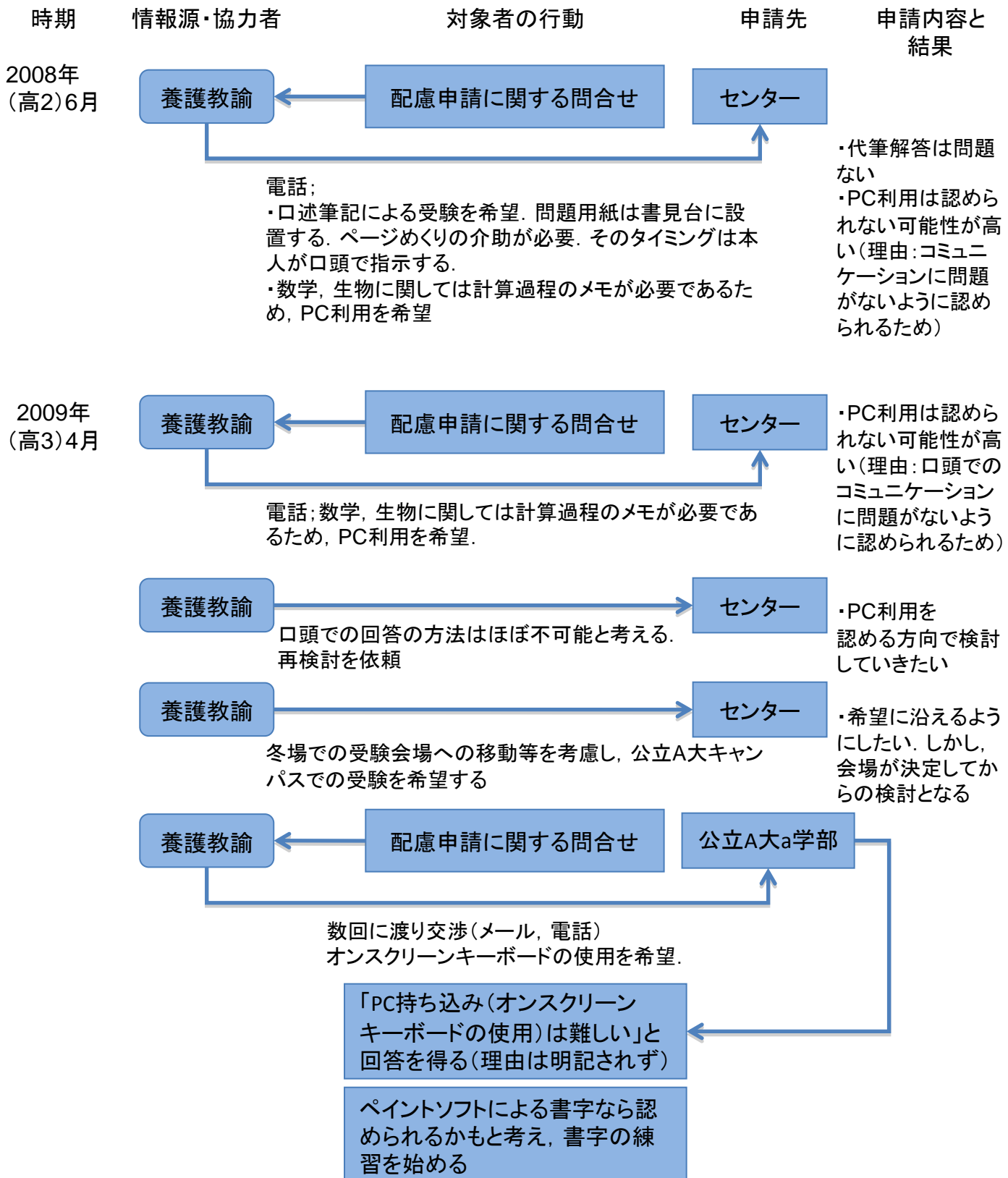
事例18: 多発性硬化症による中枢神経系の髄鞘脱落のため、高次脳機能障害様の認知機能障害が起こる。体温調節が困難。



事例19: 視覚障害(網膜色素変性症) 視能率での損失率95%以上(2級)

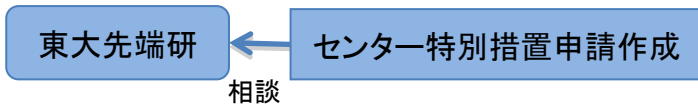
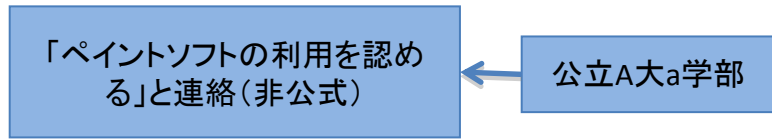


事例1: 体幹機能障害(筋ジストロフィー); 肢体不自由. 電動車いすを使用.



時期	情報源・協力者	対象者の行動	申請先	申請内容と結果
----	---------	--------	-----	---------

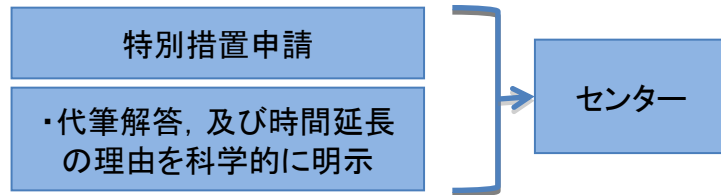
2009年
(高3)夏



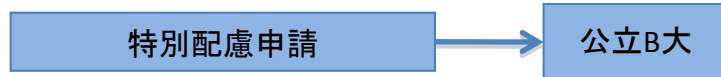
9月



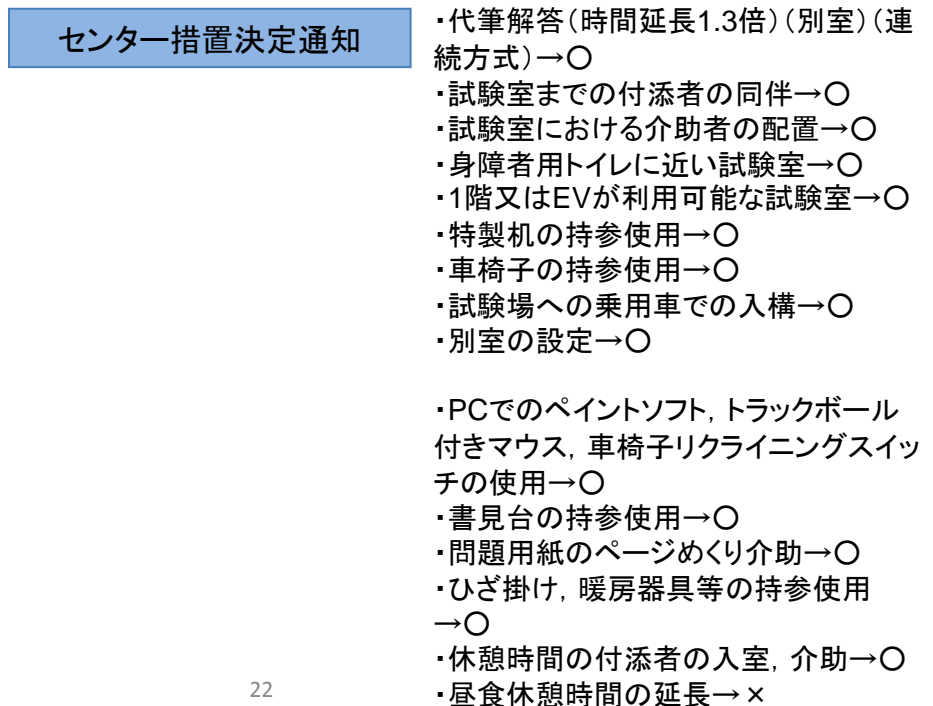
10月



11月



12月



時期	情報源・協力者	対象者の行動	申請先	申請内容と結果
----	---------	--------	-----	---------

2010
1月

センター試験 受験

特別配慮申請

公立A大a学部

措置申請決定書

公立B大

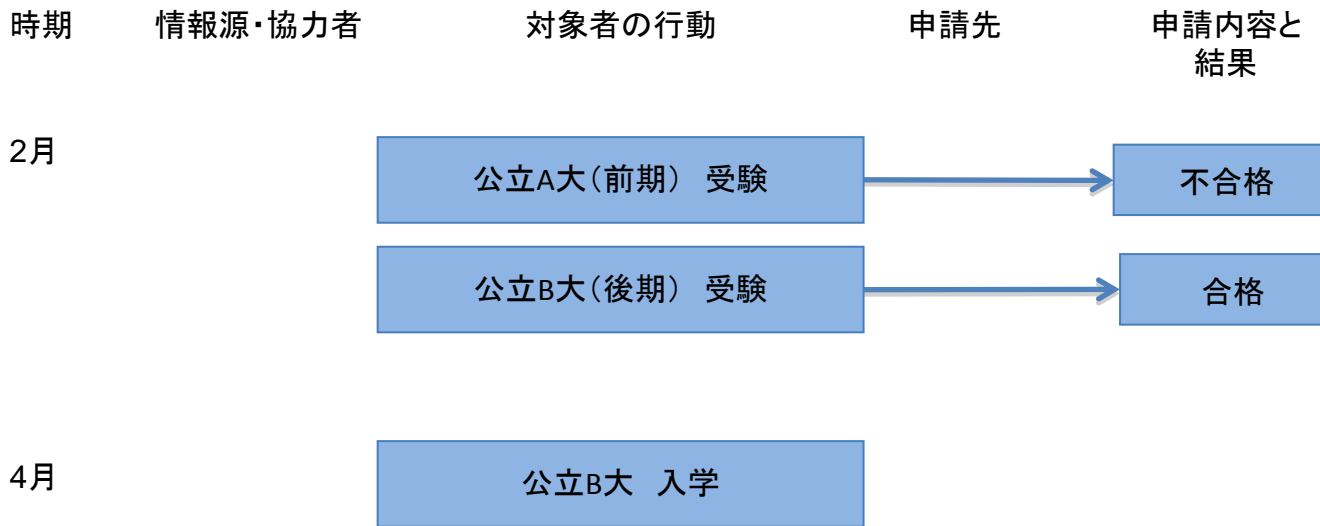
- ・試験室までの付添者の同伴→○
- ・1階又はEVが利用可能な試験室→○
- ・特製機の持参使用→○
- ・電動車椅子の持参使用→○
- ・試験場への乗用車での入構→○
- ・駐車スペースの確保→○
- ・付添者の控え室での待機→○
- ・人工呼吸器の使用, 電源の確保→○
- ・面接時の拡声機器の使用→○
- ・ひざ掛け, 暖房器具等の持参使用→○
- ・身障者用トイレの使用→○

2月

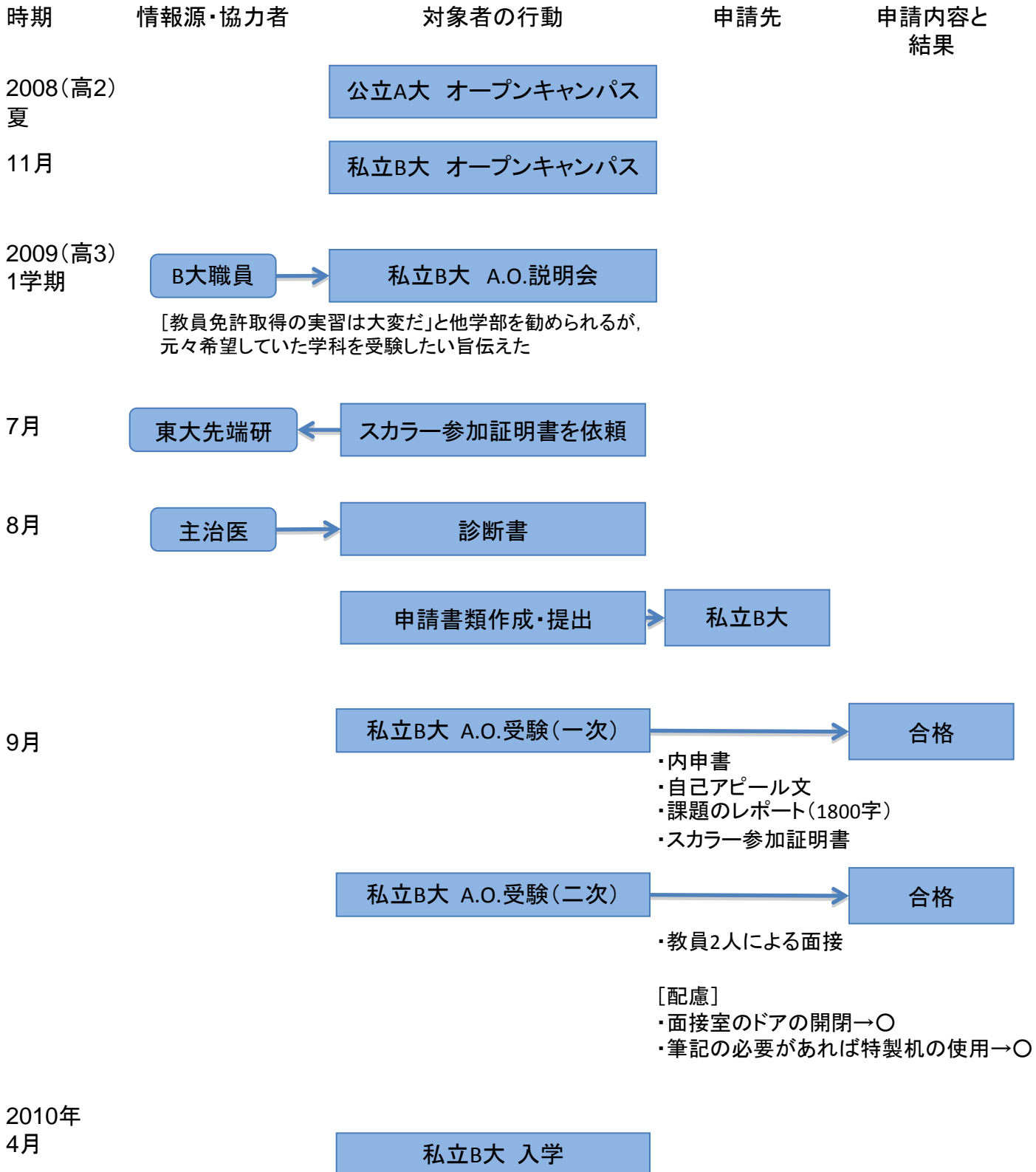
措置申請決定書

公立A大a学部

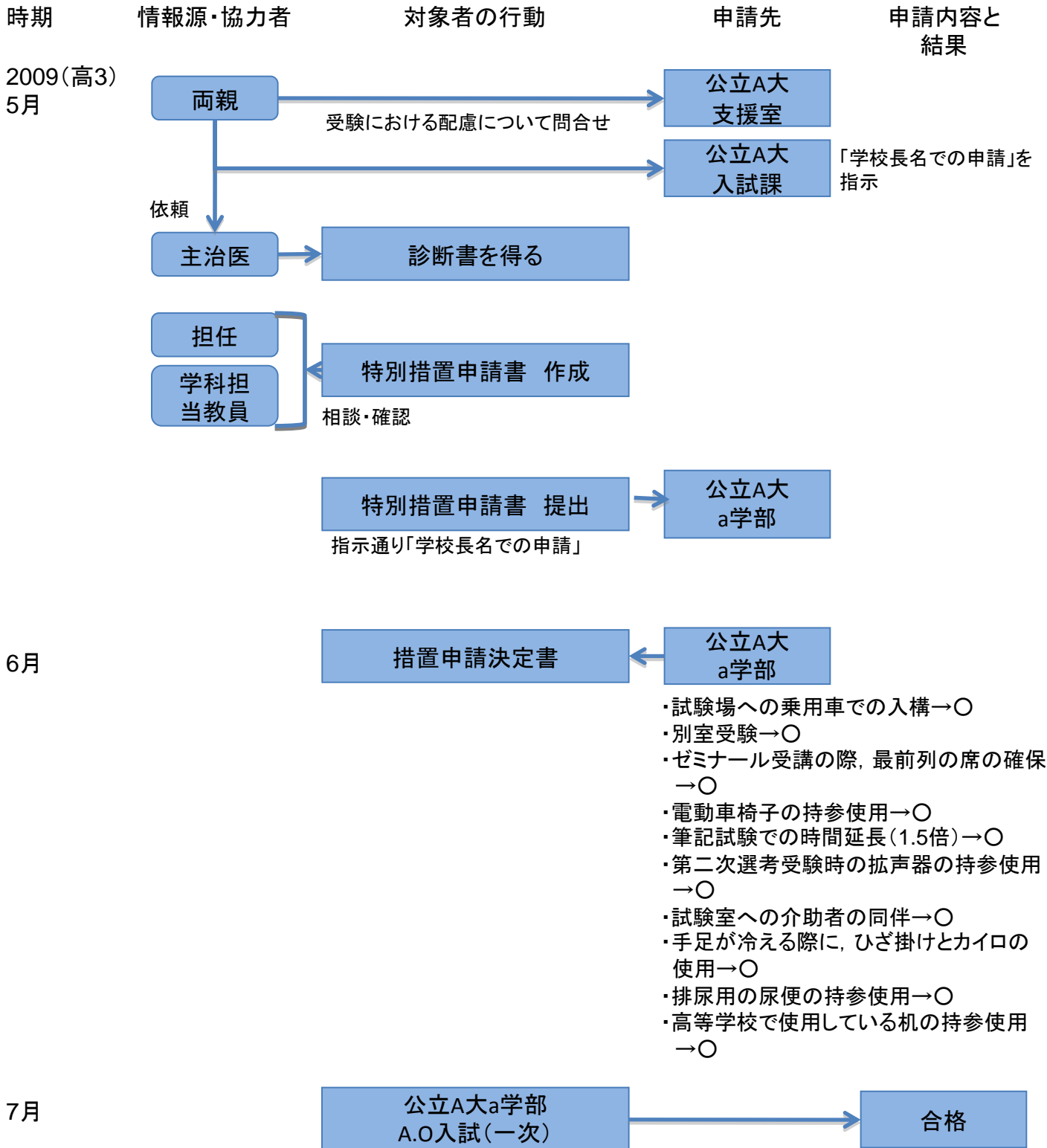
- ・試験場への乗用車での入構→○
- ・電動車椅子の持参使用→○
- ・別室受験→○
- ・1階又はEV, 身障者トイレが利用可能な試験室→○
- ・試験室までの付添者の同伴→○
- ・付添者の控え室での待機→○
- ・PC及びペイントソフトを使用した答案記入→○
- ・試験時間の延長(全科目1.5倍)→○
- ・PC, PCモニター, トラックボール付きマウス, 特製機, リクライニングスイッチ, クッション類, 書見台(2台), プリンタ, 防寒用具, 人工呼吸器, 延長コードの持参使用→○
- ・試験室内における介助者の配置及び介助→○
- ・人工呼吸器の使用, 電源の確保→○
- ・面接時の拡声機器の使用→○
- ・ひざ掛け, 暖房器具等の持参使用→○



事例2 :筋ジストロフィーによる肢体不自由. 電動車椅子を使用



事例3: 体幹機能障害(筋ジストロフィー); 肢体不自由. 電動車椅子を使用.



時期	情報源・協力者	対象者の行動	申請先	申請内容と結果
----	---------	--------	-----	---------

9月		公立A大a学部 A.O入試(二次)	→	不合格
----	--	----------------------	---	-----

	両親	センター特別措置申請作成		
	↓ 依頼	主治医	→	診断書を得る

10月		特別措置申請書 提出	→	公立A大 b学部
		公立A大b学部 A.O入試(一次)	→	不合格

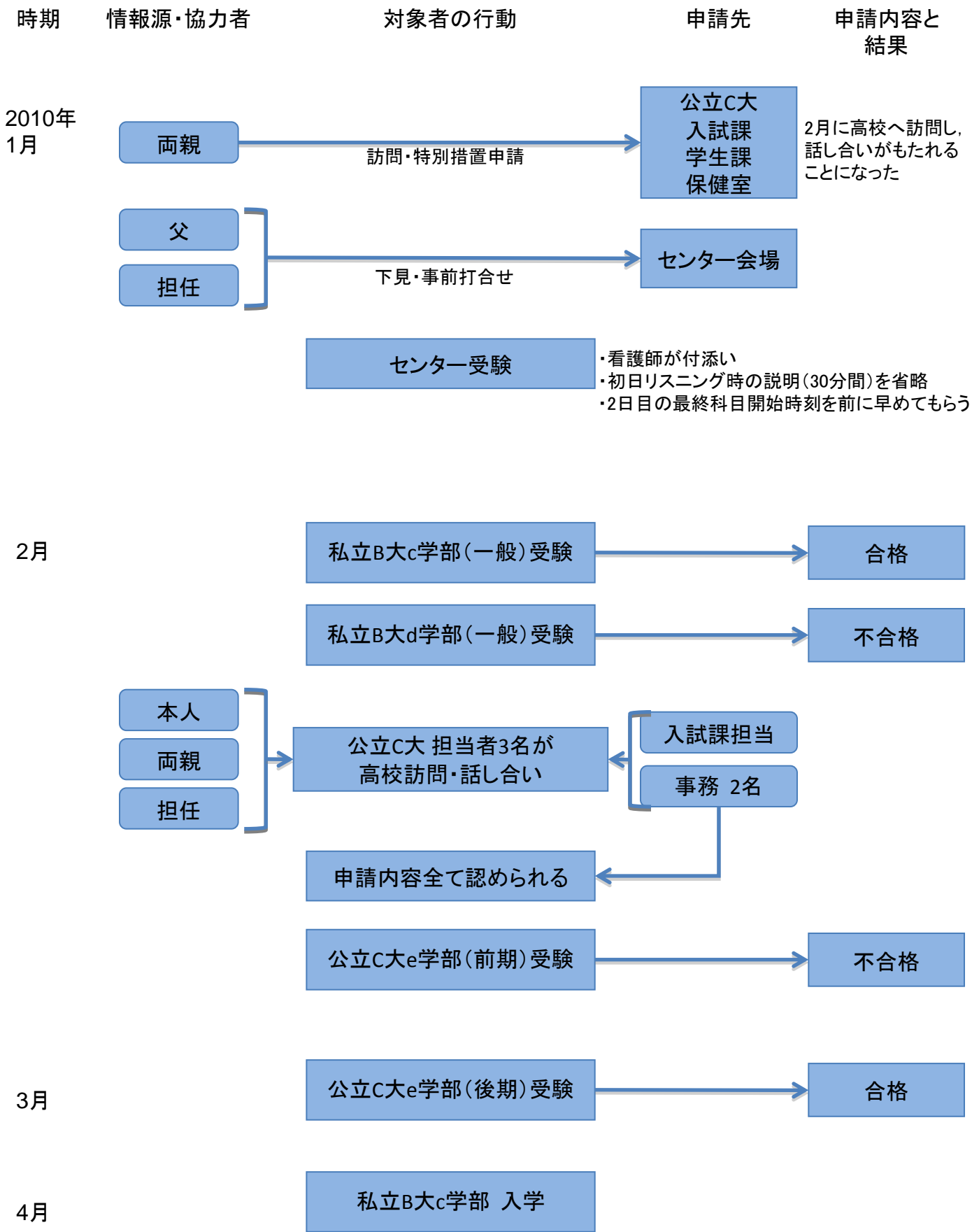
11月		重度の肺炎にかかり, 2ヵ月入院		
-----	--	---------------------	--	--

12月	両親	→	特別措置申請	私立B大
		←	措置申請決定書	私立B大

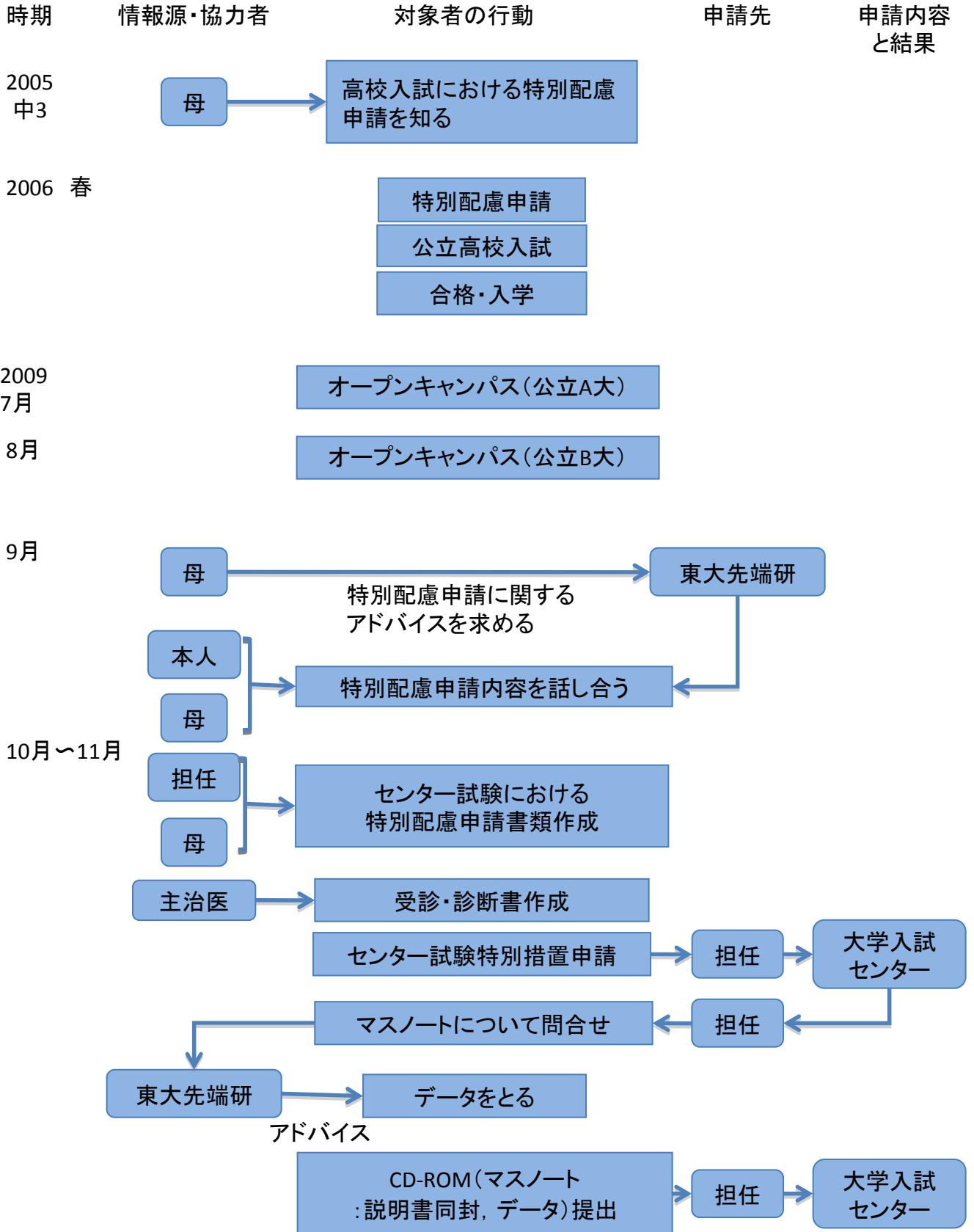
・申請内容は公立A大学と同様
→全て○
(ただし、時間延長1.5倍=105分を100分)
(ただし、介助者は隣の部屋で待機)

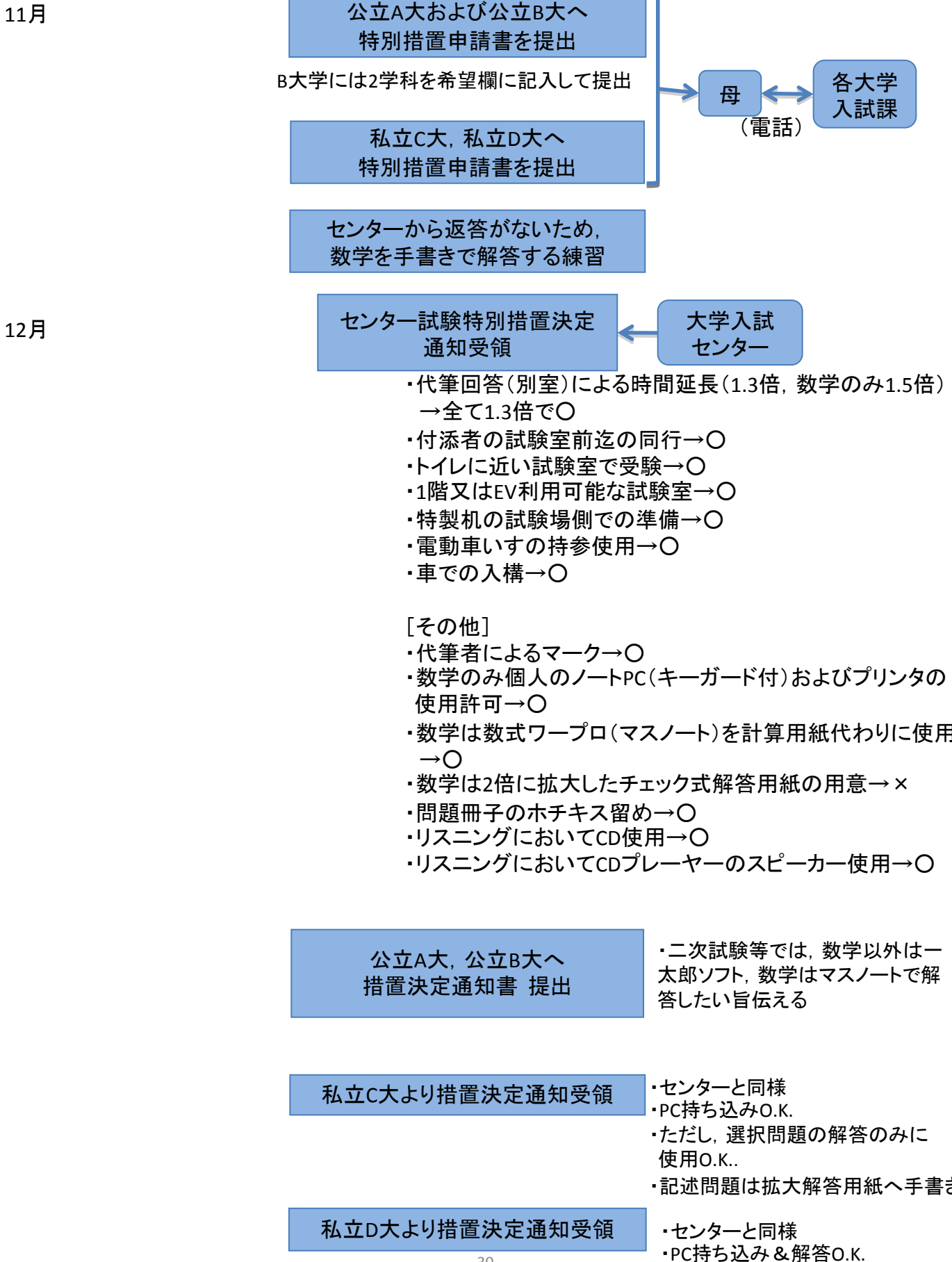
		←	センター措置申請決定書	センター
--	--	---	-------------	------

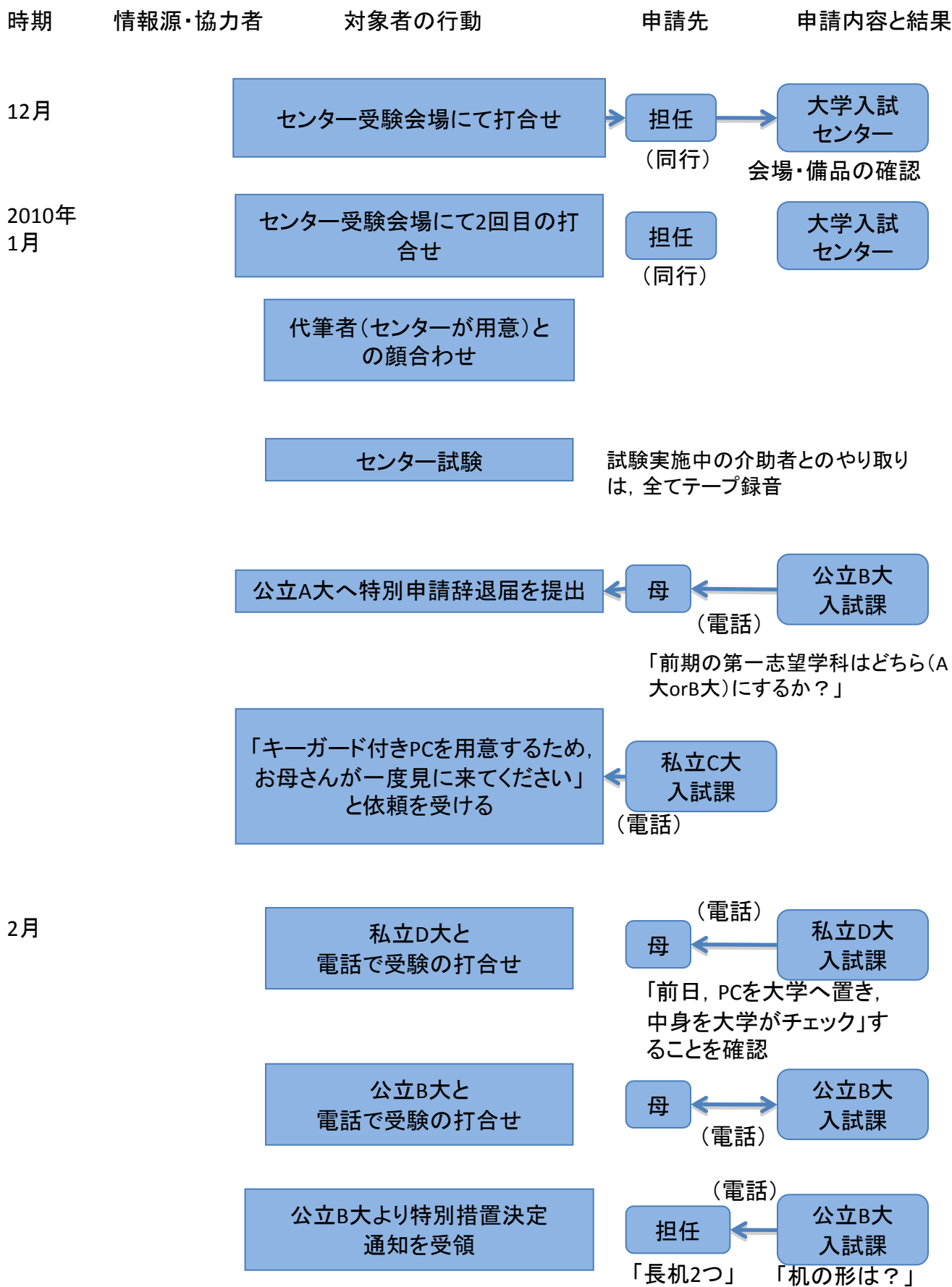
・申請内容は公立A大学と同様
→全て○



事例4:脳性麻痺による肢体不自由(四肢). 不随意運動を伴う. 筆記および動作全般に困難があり, 電動車椅子を使用. 言語障害.



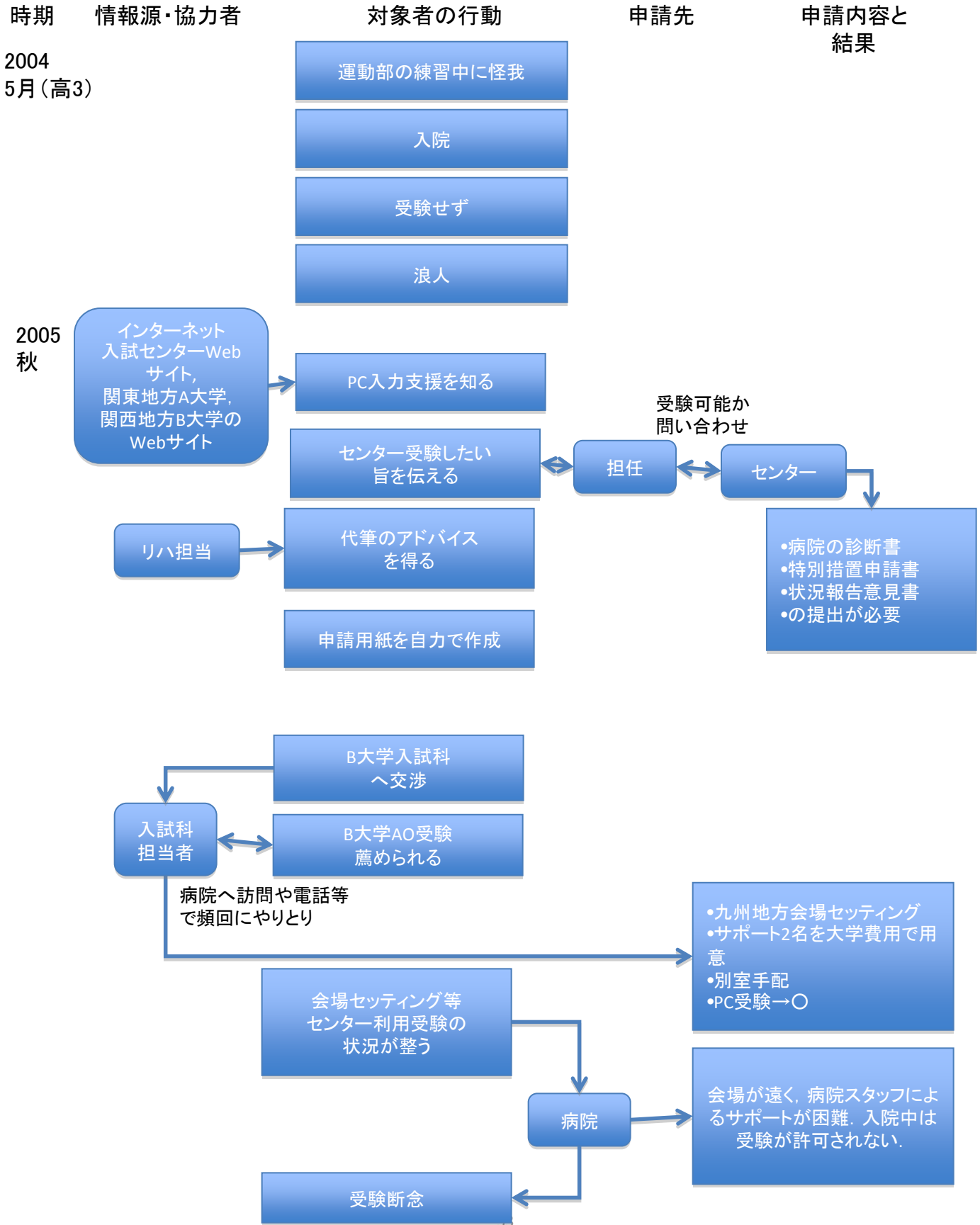




- ・センターと同様
- ・数学の時間延長1.5倍→○
- ・PC, プリンタ持ち込み→○
- ・英語の解答書式ファイルのUSBメモリ等を大学が用意→○

時期	情報源・協力者	対象者の行動	申請先	申請内容と結果
2月		私立D大 受験	→	不合格
		私立C大 受験	→	不合格
		公立B大 受験	→	合格
4月		公立B大 入学		

事例5: 四肢体幹機能障害(頸椎損傷)による肢体不自由. 電動車いすをヘルパーが操作.



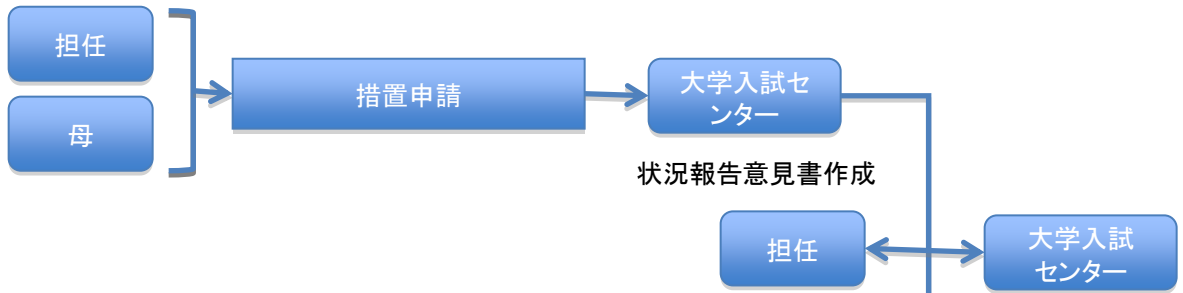
時期

情報源・協力者

対象者の行動

申請先

申請内容と
結果



状況報告意見書作成

2〜3回センターから電話で問い合わせ。使用ソフトに計算機能があるのではないかとかなりしつこく言われ、ソフト利用は無理かと思った。

2006
1月

センター受験

- 数学1.5倍, その他は1.3倍→○
- 代筆者を必要とする→○
- PC入力支援→○

(理由に, 口述不可である旨, 記述)

〈状況報告意見書〉(3)その他の欄

- 書字に要する時間: 四肢麻痺のため, 書けない。PC画面で表現するのみである。
- 読みに要する時間: 通常PC利用。PC利用できれば一般と同程度。
- 回答に要する時間: 筆記はPC画面上でのみ。非常に時間はかかる。
- ソフト使用→○

* 決められた範囲内でのみ申請。

浪人